

## 女性のがん対策 知事メッセージ

子宮頸がんは、女性の子宮の入り口付近にできるがんで、妊娠・出産・子育て世代の若い女性に増えていることが特徴です。

日本では、毎年約1万1千人の女性が子宮頸がんにかかり、約2千9百人の方がお亡くなりになっています。

子宮頸がんにかかっても、ほとんど自覚症状がありませんが、将来の妊娠・出産に影響が出る可能性があるだけでなく、進行した場合、命を救うために、子宮を摘出するなど大変な治療を受ける必要があります。

子宮頸がんを予防するためには、HPVワクチンの接種が重要です。HPVワクチンの接種により、子宮頸がんの原因となるウイルスへの感染を防ぎ、将来がんになるリスクを大幅に減らすことができます。

現在、定期接種の対象となる小学6年生から高校1年生相当の女子は、公費で接種ができます。また、これまでに接種機会を逃した若い世代の女性の方も、令和7年3月までは公費で接種することができます。

HPVワクチンの安全性については、厚生労働省の審議会により確認されており、こうしたHPVワクチンの有効性などについて知っていただき、是非、接種について積極的に御検討ください。

また、子宮頸がんは、早期発見することが重要ですので、20歳を過ぎたら、2年に1回は、子宮頸がん検診を受診するように心がけてください。

大切な命をあなた自身の行動で守りましょう。

令和5年9月27日

山口県知事 村岡 嗣政